

地域福祉活動計画策定委員会 第3回委員会 会議録

1. 日時 平成26年1月21日(火) 15:00-17:00
2. 場所 ベルウィンこもろ 3階虹のホール
3. 参加委員等(15名)
中村委員長、山本副委員長、小川委員、坂本委員、相良委員、竹中委員、田中委員、中山委員、西川委員、福島委員、牧野委員、松本委員、三島委員、村上委員、望月委員、小林アドバイザー
欠席委員等(1名)
上野谷相談役
4. 内容
 - (1)開会
 - (2)前回の振り返りと今回の目的の確認…小諸市社会福祉協議会小山事務局長より説明。
 - (3)報告事項
 - ① 情報公開の状況について…資料2-9ページを基に状況を確認。
 - ② 住民・団体意見交換会の実施に関する中間報告…資料10~12ページならびに別添資料を基に状況を確認し、地域の現状について意見交換を行う。
 - (4)協議事項
 - ① 住民アンケートの実施について…資料13ページならびに別添資料を基に意見交換を行い、出された意見を基に事務局で修正を加え、実施とする。
 - ② 分科会の設置について…資料14-15ページを基に意見交換し、分科会を設置とする。
 - (5)その他
 - (6)次回会議
平成26年4月8日(火) 13:30-16:00とし、場所は事務局調整後の連絡とする。
 - (7)閉会

議事要点

1. 開会

(委員長) 前回の会議以降、11月から12月にかけて住民・団体意見交換会を実施した。本日は意見交換会を振り返るとともに、住民アンケート実施に向けた検討を予定している。

2. 前回の振り返りと今回の目的の確認

(委員長)：それでは事務局より説明を。

(事務局)：前回の第2回策定委員会では以下の三点が確認された。

一つ目は、豊かな地域を構成する要素を【誰もがつながり支え合える地域】【新たな支え合いが生まれる地域】【支えている人を応援できる地域】【地域福祉の基盤がある地域】の4つとして、この視点で地域の情報を整理していくこととした。二つ目は地域福祉の推進には公民館との連携が重要であるとの認識を共有した。三つ目は住民・団体意見交換会の概要(目的、対象者、基本的な視点)を確認し、11月から12月にかけて実施とした。

本日は住民アンケートの実施に向けた検討と、策定委員会分科会の設置についての検討をお願いしたい。

3. 報告事項

(委員長) 事務局よりまとめて報告いただいた後、意見交換したい。

(1) 情報公開の状況について

(事務局) 資料2-9ページを基に報告する。

① 第2回小諸市地域福祉活動計画策定委員会の様子

・マスコミ報道…平成25年11月25日にコミュニティテレビこもろにて放映された映像の一場面を資料として添付。

・小諸市社会福祉協議会ホームページ…地域福祉活動計画のページへ300超のアクセス数がある。

② 住民・団体意見交換会の様子

・社協情報1月号掲載記事…社協情報こもろ1月号の5ページに住民・団体意見交換会の様子を写真付きで掲載している。

(2) 住民・団体意見交換会の実施に関する中間報告

(事務局) 資料10ページ意向を基に報告する。

① 実施状況…資料参照。

② 結果の取りまとめについて…当初の予定を変更し次回策定委員会で報告としたい。

③ 意見交換会に参加された委員の感想

(委員長) 意見交換会に参加された委員より感想をいただきたい。

(委員) 各団体と社会福祉協議会の情報交換の場を継続して欲しい。

(委員) 多くの素晴らしい活動を知ることが出来た。一方、それらが広く知られていないことも感じた。

- (委員) 住民意見交換会は民生委員の参加が多かった。民生委員は地域福祉にとって重要であるが、その他の方の声も聞きたかった。
- (委員) これまでは福祉は民生委員に任されていた。これからは区民全員が福祉に関心を持たなければならない。そういう意識作りも必要。
- (委員) はこべ会としてはこのような意見交換が初めてだった。これからも意見交換を継続して欲しい。
- (委員) はこべ会、手をつなぐ親の会の意見交換会に同席。社会福祉協議会職員が参加者の声を受け止めて、それを受けての意見提案をしており、有意義な意見交換会だったので、継続して欲しい。
- (委員) 市 PTA 連合会では評議員会にてアンケート形式で声を集めた。事務局資料を見ると、多くの意見が上がっているが、趣旨とは異なる意見もある。今回は事前に趣旨を伝えた上で声を集めたい。
- (委員) 少子化、高齢化など福祉的な課題が多く、区として地域の支え合いを考える必要がある。地域福祉活動計画は、私たち自身が小諸市の将来を考える機会であり、策定委員会の責任は重いと感じた。
- (委員) 民生委員や PTA がそれぞれの活動を頑張っていた様子が意見交換会で確認できた。それぞれが個別に活動しており、まとまりとして機能していないことが課題。地域福祉とは地域づくりである。その地域づくりの方向性に一本の柱を作ることが地域福祉活動計画の役割だと感じた。
- (委員) おもちゃ直し隊こもろでは、1時間以上意見交換会を行った。わずか一つの団体でも熱い思いがある。ボランティアセンターに登録している団体の思いは、一つの団体との意見交換会でくみ取れるものではない。今後、市民活動・ボランティア活動を盛り上げていくのであれば、社会福祉協議会は積極的に意見を聞きつつ、社会福祉協議会の目指す小諸市像をボランティア団体に伝えてほしい。
- (委員長) 実際に意見交換会を行い、きっかけを作ったことは大きな成果であり、これからの継続性が重要となる。意見交換会に参加して感じたが、みんな良いことをやっているがそれぞれの役割が整理されていない。この役割整理と連携のあり方を考えていくことが活動計画の最終的な目標になる。ここまでを踏まえて全体的な所で意見をいただきたい。
- (委員) 「私が誰かを支えつつ、誰かに支えられるから、地域とのつながりは必要」という視点が地域福祉ではないか。全ての人は誰かを支える面と誰かに支えられる面を持っている。例えば、要介護状態の高齢者がいることで地域が介護に興味を持つ。支える人、支えられる人を区別するのではなく、誰もが地域に貢献しているという発想をしていきたい。
- (委員) 今の意見に賛成。ボランティア活動も同様で、「する人・される人」という意識では広がらない。私は奉仕団体に所属しているが、活動の中で私自身が得るものもたくさんある。世の中に「幸せにする・される」という区別はない。そういう機運をどこで生み出していたら良いのかと考えている。

- (副委員長) 昔と比べると、人と人がつながりにくい社会になっている。その風潮の中、地域のつながりを皆で考える場がこの策定委員会。ここまでの議論を聞いていると、みんなの思いは一つ。それぞれの本音をぶつけ合いながら、良い計画を作りあげたい。
- (委員) つながる気持ちは誰しもが持っているが、個人の思いだけでは限界がある。特に若い人が地域の役員を務めるには、会社の理解も必要。
- (委員) 昔は道普請のあと、隣組で交流があり、食べ物を持ち寄った。支える人も支えられる人も同じ立場だった気がする。
- (委員) 昭和 30 年代の地域は支え合っていた。これから活動計画を作るにあたり、過去の地域のつながりを取り戻すような計画にはいけない。失われたものが戻るはずはない。新しい人と人とのつながりのあり方の具体策を考えなければならない。過去ばかりを見ていると、計画は頓挫してしまう。
- (委員長) 意見交換会では、「もっと話したい」という声が聞こえた。福祉社会を作る中心となる社会福祉協議会が地域に向いていく意義を感じた瞬間である。地域福祉活動計画は、特定の人への支援計画ではなく、誰もがつながり合うための計画としたい。
- (委員) ここまでの議論のキーワードは「人と人とのつながり」。先日、スマホの危険性を親に啓発する講演会を市 PTA 連合会で開いた。しかし、講演を聞いてほしい保護者が出てこない。危機意識、関心のない方へのアプローチが難しいと感じた。そういう人のつながりが心配。
- (委員) 各区の高齢者クラブ活動に参加している高齢者は人とのつながりがある。一方、参加しなくなった高齢者のつながりが心配。区としても高齢化が課題であり、区の組織の一部として高齢者クラブがあるべき。高齢者の力を活用して欲しい。
- (委員) 民生児童委員は一区一人体制が多く、活動に限界がある。高齢化という地域課題に対応するためには民生委員と区の協働が必要だと感じている。
- (委員) 各団体、組織の活動が点として存在している。区は区、民児協は民児協としてこれまで活動してきたが、福祉社会を作るためには連携が必要。具体策を分科会で協議して一本の柱を作りたい。
- (委員) 行政職員が児童の支援で自宅に行くと、高齢者や障がい者の支援も同時に必要な事例も多い。従来の個人を対象とした福祉的支援ではなく、世帯全体を対象とした福祉的支援が必要であり、様々な関係者が役割分担しつつ情報共有しなければならない。別添資料「意見一覧」は市役所に持ち帰り、担当課と情報を共有する。また次期地域福祉活動計画策定までには、地域福祉計画策定についても検討したい。
- (委員長) ここまでの議論を踏まえ、事務局から補足説明や感想をお願いしたい。
- (事務局) 別添資料「意見一覧」では、いただいた声を「今できていること」「今困っていること」「今後不安なこと」「今後期待したいこと」に分けて整理した。分析中であるが、「今できていること」の声が多い。意見交換会の場では、「今できていること」を意識して続けているのではなく、自然に続けているという印象を受けた。今できていることを無理なく続けるための支援を考えたい。また、「今困っていること」「今後不安なこと」の声も大切にしたい。地域福祉活動計画は、これらの解決の道筋を立てる役割もあると感じている。

4. 協議事項

(1) 住民アンケートの実施について (資料 P13)

(委員長) 事務局より提案を。

(事務局) 資料 13 ページと別紙資料の住民アンケートの内容で住民アンケートを実施したいので、協議をお願いしたい。

① 実施概要…資料参照。

② アンケート内容について…資料参照。

(委員長) 資料ならびに評価表を基に意見ををお願いしたい。

(委員) この住民アンケートは今回限りの実施なのか。また、住民アンケート配布時には実施目的等別紙で添付されると考えてよいか。

(事務局) 住民アンケートは第 2 期地域福祉活動計画策定の際には再度実施予定。実施目的等は住民アンケート配布時に添付する。

(委員) 平易な表現で文字も大きく、回答しやすい。配布対象者が少ない印象を受ける。設定根拠を教えてほしい。

(委員) 問 11 の見出しに「区を超えたおつきあい～」とあるが、趣旨はボランティア活動についての設問となっている。「ボランティア活動について～」としたほうが分かりやすい。

(委員) 各回答欄の自由記述欄は「理由」と表現されているが、もう少し柔らかくしてほしい。

(委員) 問 13 以降の高齢者との関わり等の質問は、職業として関わっている人は回答に迷うので、表現の検討をお願いしたい。

(委員) 今の意見に賛成。仕事での関わりは省くべきだと考える。

(委員) 問 19 の選択肢に保健センターの追記を。

(委員) 問 19-21 の相関性の再検討を。

(委員) 問 24 「誰もが住みやすい小諸市を～」という表現の「誰もが」はイメージしにくい。「自分が住みやすい小諸市を～」としたらどうか。

(委員) 今の意見に賛成。

(委員) 問 27 の選択肢に今後社会福祉協議会が取り組みたいことがあれば追加を。

(委員長) ここまでの意見を踏まえ、事務局の見解を。

(事務局) 住民アンケートは区長経由での配布を想定し、区長会役員会にて了解を得ていた。

区長の負担軽減を考え、68 区各 8 名の配布としたので 544 という母数になっている。しかし、配布に向け数名の区長に相談をした結果、区民名簿すらない中で配布は困難という声が多かった。配布方法を再検討し、社会福祉協議会より個別郵送での配布とした。社会福祉協議会には住民情報(氏名、住所等)がないため、市民課の閲覧簿から手作業で抽出している。母数は再検討するが、手作業での抽出には限界があることも了承いただきたい。アンケートの内容に関しては、出された意見を反映して表現等を修正する。

(副委員長) ボランティア活動という言葉が好きではないという声がある。奉仕活動で良いのではないか。

(委員) ボランティア活動と奉仕活動は全く別物であり、アンケート内の表現はボランティアで良いと思う。

(委員) ボランティアは自分の余暇を利用して自分の特技を誰かのために活かすものというイメージがある。ボランティア活動と奉仕活動の専門的な知見から意見をいただきたい。

(委員長) ボランティア活動については、日本ボランティア学会等が定義しているが説明していると長くなる。一方、一言で表現すると誤解を招いてしてしまう。外来語表記を好まない市民もいるという共通認識の下、住民アンケートではボランティア活動という表現を使いたい。ここでの議論を踏まえて、住民アンケートを実施とする。

(2)分科会の設置について

(委員長) 事務局より提案を。

(事務局) 資料 14、15 ページ以降の内容で分科会の設置について協議頂きたい。

(委員) 分科会での議論は必要。分科会のテーマの一つとして「生きがい・やりがい」が挙げられている。生きがいを改めて考える時期にきている。趣味やボランティア活動と共に社会に必要とされることも生きがいになる。高齢者であろうと障がい者であろうと同じなので、そこに焦点を当てることも必要。

(委員長) 今の意見を含め分科会で議論を深める。分科会設置の合意を得たので次回より開催する。

5. その他

(アドバイザー) 社会福祉協議会は社会福祉を協議するためにあり、地域に出向くことが大前提の組織。意見交換会を行うことで地域に出向くことの大切さが再認識された。住民アンケートの結果も楽しみである。

6. 次回会議（第4回）

(委員長) 事務局案の提示を。

(事務局) 4月8日（火）13:30～16:00 の開催で、場所は追って連絡としたい。

(委員長) 異論なければ事務局案としたいがいかがか。場所については事務局で調整を。

(委員) 異議なし。

(委員長) 予定していた議事は以上。閉会とする。

7. 閉会